

とうほく 元気 レポート

今回のレポート先
株式会社
磐城高箸

〒979-0153
福島県いわき市
川部町川原2番地
TEL 0246-65-0848



一冊の本との出会いが道を開く

「小さい頃から、いわきの造林会社に勤めていた祖父の家で夏休みを過ごし、林業の話を聞いていたので、この地と林業にはなじみがありました」と高橋さん。祖父の遺した山林の管理を任されたとき、林業が衰退し、美しい山林の荒廃が進んでいることを知りました。

「この問題をなんとかしたい」と考えていたときに『割り箸はもったいない? ―食卓からみた森林問題』(田中淳夫著・筑摩書房)という本に出会いました。そこには、割り箸の材質としてはヒノキよりも杉の評価が高く、割り箸用の製材の単価は建材の5倍以上になること、間伐材の有効活用が森林の再生につながるなどが記されていました。

間伐材を活かし、

森林再生の「かけ箸」に

良質な杉の産地である福島県いわき市。株式会社磐城高箸^{たかはし}の高橋正行社長は、神奈川県横須賀市からイターンして、子どもの頃から慣れ親しんだいわき市で杉の間伐材を活用した割り箸の製造・販売の会社を設立しました。

創業間もなくして東日本大震災が発生。一時は廃業を考えましたが、多くの方々の協力を得て事業を再開させました。被災地の復興を願い、福島県、岩手県、宮城県県の杉の間伐材でつくり上げた「三県復興 希望のかけ箸」は各方面で高い評価を受けています。付加価値の高い製品をつくり、間伐材の価値を高めることで、林業の活性化と森林の再生を目指す高橋さんにお話を伺いました。



◀株式会社磐城高箸の高橋正行社長

割り箸で美しい山林を守る

「豊富にある杉の間伐材を有効に活用することができれば、いわきの林業が活性化し、森林の保全につながるのではないかと」と、地元の杉を使った割り箸の製造・販売を思いつきました。高橋さんは本の著者である森林ジャーナリストの田中さんに連絡を取り、割り箸の事業化について何度も質問し、さまざまな助言や支援を受けました。そして国内各地の割り箸工場を見学するとともに、北海道にある割り箸の製造機械を製作しているメーカーにも足を運ぶなどして検討を重ねました。

2年にもおよぶ準備期間を経て、事業として成り立つ自信が深まったことから、高橋さんは起業といわきへの移住を決意しました。

「木のプロ」と二人三脚でスタートした事業

「起業にあたっては、祖父の知人で、長い間造林にかかわってきた鳥居塚さんに手伝ってもらいました」と高橋さん。2010年8月、「木のプロ」である鳥居塚実さんを相談役に迎え、二人三脚での事業がスタートしました。

試行錯誤の末に「これなら売り物になる」と自信が持てる製品ができあがった矢先に東日本大震災が発生。原子力発電所の事故の影響で卸売業者との契約はすべて解除されてしまいました。4月初旬に実施した製品の放射線測定検査では「問題なし」との結果が得られましたが、安心したのもつかの間、直後の大きな余震で機械が損壊。「心が折れ、廃業を覚悟しました」と高橋さんは当時の心境を語ります。



▲杉の木の赤みを帯びた中心部が「赤身」で、外周部分が「白太」。その両方が出ているものが「源平」と呼ばれます

▲最高級品の「杉利休9寸(24cm)柎目割箸」。国産の杉でできた割り箸は、木肌の風合いが感じられ、やさしい木の香りがします



▲長年の経験と豊富な知識で高橋さんを支える鳥居塚実相談役(左)



◀箸にしたときにキレイな柎目(うすめ)が表面に出るように丸太をショートケーキ状に割っていきます



▲割れやヒビが入らないように、天日で杉板をしっかりと乾燥させます



▲「三県復興 希望のかけ箸 桜花」。震災から5年を迎え、復興への願いを込めた「希望のかけ箸」に桜が咲きました(1,000セット限定販売)



▲不良品や使い終わった割り箸などは、工場の薪ボイラーの燃料として利用されています



▶「2013年度グッドデザイン賞」など数々の賞を受賞

「三県復興 希望のかけ箸」が数々の賞を受賞

「三県復興 希望のかけ箸」は「全国間伐・間伐材利用コンクール」「グッドデザイン賞」「新しい東北復興ビジネスコンテスト」など数々の賞を受賞しています。商品のデザインや品質の良さだけではなく、「間伐材の活用で林業を活性化させ、森林環境の保全に取り組んでいく」とのコンセプトも高く評価されています。

磐城高箸の工場では、薪ボイラーの燃料として割り箸の不良品や端材を使い、他の燃料は使われていません。おがくずは近くの牛舎に引き取ってもらい、敷きわらの代わりとして利用されています。「堅さが足りずに不良品となった割り箸は、その柔らかさを活かし、枕など新商品の開発にも取り組んでいます」と高橋さん。



▲「三県復興 希望のかけ箸」は売上の3割が杉の調達先であるいわき、岩手県陸前高田、宮城県栗原市の3市に寄付されています

▼気持ちを込めながら一つ一つ丁寧に焼印を入れて仕上げていきます



▲デザイナー有志の復興支援団体「Eat East!」がデザインしたパッケージ



被災地の杉に復興の願いを込めて

そんな中、東京や福岡で活動するデザイナー有志の復興支援団体「Eat East!」が3000膳の箸を買い取ってくれたのです。彼らはその箸にオリジナルデザインのパッケージを施してイベントなどで販売。売上の全額を日本赤十字社に寄付しました。「彼らの活動に勇気づけられ、自分も頑張らなければならない」と高橋さんは事業再開を決意します。

高橋さんは「Eat East!」とともに「三県復興 希望のかけ箸」をつくり上げました。この箸には、福島県の「磐城杉」、岩手県の「気仙杉」、宮城県の「栗駒杉」の間伐材を使用し、「復興の架け橋となり、東北が再び人々の希望を実らせる場所となりますように」との願いが込められています。

株式会社磐城高箸

<http://iwaki-takahashi.biz/>

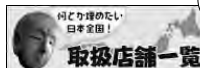


「製品紹介」から商品をご覧ください

取扱店

製品の取扱店は岩手県、宮城県、福島県を中心に数多くありますので、磐城高箸のホームページの「取扱店舗一覧」をご確認ください

このバナーが目印です



①間伐材マークを取得しています



全国森林組合連合会の間伐材マーク認定委員会が認定する、森林整備・育成に貢献している企業・製品のものが使用できます

②木づかいサイクルマークを取得しています

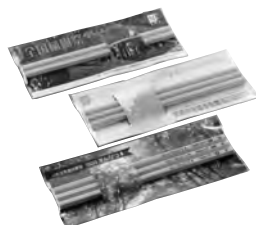


木づかいサイクルマークは、美しい森の再生を願い、国産材を利用してつくられた製品に付けられる環境貢献の証です

③フォレスト・サポーターズに参加しています



「美しい森林づくり推進国民運動」の一環として、磐城高箸では「木をつかわう」「森をささえよう」「森と暮らそう」の森づくり活動に取り組んでいます



ご贈答用に、お店のオリジナル割り箸に、そしてノベルティグッズとしても人気です

箸袋やパッケージ、刻印などさまざまなオーダーに対応可能ですので、お気軽にお問い合わせください。

☎ 0246-65-0848 ☎ 050-6861-0164

☎ ホームページからのお問い合わせも可能です



株式会社 磐城高箸

〒979-0153 福島県いわき市川部町川原2番地
TEL : 0246-65-0848 FAX : 050-6861-0164

Facebook 磐城高箸 検索

<https://www.facebook.com/waribashi.iwaki>

◎最新の情報はFacebookをご覧ください

▶おいしい初め用の「おめでた箸」。「第一回新東北おみやげコンテスト」で入賞しました



▲高橋さんとスタッフのみなさん

▲いわき産のヒノキの間伐材を利用した「北限のひのき鉛筆」

▶緑起の良い紅白の色合いが特別な日にふさわしい「杉祝い箸2膳セット」



日本の林業を元気にしたい

磐城高箸では「希望のかけ箸」以外にも、赤(赤身)と白(太白)、紅白(源平)と色味の異なる杉材の特徴を活かした「杉祝い箸」や箸の入れ物に杉板を使った「おめでた箸」などさまざまな新商品を生み出しています。いわきが北限といわれるヒノキの間伐材を使った「北限のひのき鉛筆」は企業のノベルティグッズとして大人気です。「アイデアが次々と浮かんでくるんです」と高橋さんは笑います。

「まずは事業を継続していくこと。そして、もっと付加価値の高いモノを生み出し続けていけば、被災地だけではなく、日本の林業を元気にすることができると考えています」と高橋さんは自身の想いを伝えてくれました。